

第4回(平成21年度)通常総会開催報告

主なトピック:

**新役員体制の発足、江戸城築城プラン中間報告、
今後2年間で会員総数3000名へ、300万円募金キャンペーン開始**

第4回通常総会には、本年2月22日(日)午後、両国の江戸東京博物館会議室で総数87名の会員とゲスト(この他正会員からの委任状出席は81通)が参加して開催されました。総会議案はすべて原案通り議決されましたが、質疑応答時間では、参加者から建設的な提案がなされ、理事と会員との間で活発な意見交換がなされました。総会後の懇親会にも67名が参加され、会員同士の懇親のみならず、この会の活動を拡大する為の方策が熱く語られていました。

今総会の議事次第は、①理事長承認、②動き出した「江戸城築城」プランの中間報告、③平成20年度事業報告、決算報告並びに監査報告と承認、④定款の一部改定の承認、⑤平成21年度事業計画の承認、⑥平成21年度収支予算承認、です。

<理事長の総会承認と新役員体制の発足>

今年は役員の総改選期で、定款に基づき、小竹直隆氏の理事長就任が総会により承認されました。また当会発足以来会長を務められた丹羽晟氏がこのたび勇退され、これまで当会特別顧問だった太田資暁氏(太田道灌公第18代子孫)が新会長に就任されました。新役員体制は当会ホームページの;

「江戸再建を目指す会とは」

<http://www.npo-edojo.org/mezasu/index.html>

をご覧ください。

<理事長所信表明>



小竹直隆氏は、理事長挨拶の中で「NPO法人設立以来3年を経て、お蔭さまで昨年11月に『会員総数1000名突破を祝う会』を開催させて頂きましたが、この3年間で私たちを觀る世間の目が少しずつ変わってきたと感じています。「1000人集会」に、観光庁長官代理と千代田区議会議長がご出席頂き、私たちの活動に対して温かい激励のお祝辞を賜ることができたことは、当会が国と地域から言わば公的な認知を得られた何よりの証と言えるのではないのでしょうか。

いま地球規模で時代が大きく変わろうとしています。その中で日本が「これからどこへ行くのか」が問われています。江戸城が再建されれば、それは類稀な日本の伝統と文化の遺産を後世に伝え、また観光立国を標榜する日本の新しい国づくりのシンボルになることは疑いありません。いま私たちは、各界、各層に広く江戸城再建を訴える、“草の根”運動の第3段階に入りましたが、これを国民運動にまで発展させる為には、いままで以上に理事、正会員をはじめとする会員の皆様方と一体になって会員拡大を進めると共に、江戸城ゆかりの千代田区の関係諸団体や千代田区在住の皆様方と連携して、新しい「まちづくり東京」の一翼を担うことによって、必ずや道は拓けると、考えます。「江戸城再建によって、日本を夢と希望が持てる国にしていきたい」との想いを同じくする人々と一緒に、ひたすら江戸城再建への道を歩き続けてまいります。」との所信表明がありました。

<動き出した「江戸城築城」プラン（中間報告）>

懸案だった「江戸城築城」プランについては、目下専門的な研究が鋭意進められており、総会席上、次の3氏から現段階での成果として「中間報告」が行われた。報告された研究テーマと要旨（抜粋）は次の通り。正式な対外発表は、今秋末になる予定。



写真提供：森ビル株

天守閣再建後の景観想像写真（森ビル株作成）

1) 「江戸城再建の今日的意義」（総合文化研究所・西川壽麿氏）

- ・ 今後の持続可能な地球環境と共存社会実現のために、日本の長所を日本人自らが冷静に省み諸外国に伝える段階となっている。また、「江戸」は他国の模倣ではない日本独自の計画都市であったが故にその歴史遺産も世界に伝えなければならない。
- ・ 江戸城ゆかりの平川河口付近は、旧石器時代から各時代を通じ繁栄した千代田文明の痕跡が存し、永く人々に慈しまれてきた江戸・東京史の最重要地である。
- ・ 図面が遺る「寛永度天守」は、茶の湯・生け花・算盤算数・落語・剣道等こんにち日本文化や伝統と呼ばれるものはおしなべて寛永年間の人々を祖としており、文化象徴性が高い。
- ・ 皇居およびその周辺の美しい自然の中に溶け込んだ日本の伝統と文化の象徴として、天守の復原展示は今日検討に値する。また、メトロポリタン美術館のように「民の力」を軸とするところに今日的意義がある。

2) 「つくとすれば、どんな城になるか」（株倉橋英太郎建築設計事務所・倉橋英太郎氏）

- ・ 特別史跡指定区域における天守復原とすると「伝統工法による木造」のみ許可されるとの仮定で今調査では優先するが、指定区域外エリアを想定した別工法についても資料化する予定。
- ・ 350年以上前に使われた素材（木材、鋼瓦、漆喰など）を、いまどこから調達できるか。宮大工や人材をどこまで集められるか等につき、具体的な検討、研究を進めている。
- ・ 伝統工法による木造建築で再建するとすれば、費用はどの位かかるか、鉄筋の場合と対比して、時価費用を試算する。併せて、工期についても考察する。

3) 「復元は、伝統構法に基づく木造建築で」（株増田建築構造事務所・増田一眞氏）

- ・ 江戸時代の文化を象徴する建築物の復元を現代において実行する意義は、あらゆる点からみて、優れた、美しい建築であるべきであり、その為には、伝統木構法に基づく木造建築が最も相応しい。
- ・ 建築構法が守るべき性能として耐力性、耐久性、美観性、資源性など10項目があるが、現代木構造、RC造、鉄骨造など現代構法は、10原則に照らして何れも何らかの欠陥があり、合格圏に入るのは日本古来の伝統木工法のみである。
- ・ 唯一の例外は、混構造である。わが国では異種材料の混用が原則禁止されているが、適材を適所に使う混構法は世界的に普及しており、伝統木構法と混構法を併用することについては、検討の余地がある。
- ・ もし伝統構法によって江戸城復元が行われれば、日本の伝統技術を後世に伝える波及効果を期待できると同時に、長く伝統木造建築に携わってきた棟梁、職人たちが誇りと自信を取り戻す大きな転機になると信ずる。

<総会付議事項>

付議事項は以下の4点であり、全て原案通り議決されました。議案の概要は以下の通りです。

・第1号議案：平成20年度事業活動報告、決算報告並びに監査報告

① 平成20年度事業活動報告：

- ・ 会員拡大：平成19年末の会員総数は767名だったが、平成20年の一年間で1118名まで拡大することができた
- ・ 江戸城再建基本構想作成事業（築城プラン）：懸案だった「築城プラン」作成が、篤志家の某氏からの寄付金によって必要な資金調達を得られたことにより、平成21年度中の研究発表に向けて、具体的な一歩を踏み出すことができた。（「中間報告」 上述）
- ・ 事務局運営体制の強化：10名余の無償ボランティアの懸命な努力により事業の拡大に漸く対応することができた。しかし専ら無償ボランティアの善意の奉仕に頼る、いまの事務局運営には明らかに限界があり、一部専任化の必要性が高まってきている。
- ・ その他：「外部団体及び組織との交流・提携事業」は、千代田区内諸団体との提携を具体化する第一歩を踏み出すことができた。経常的事业である「広報宣伝」、「イベント、セミナー開催」は、ほぼ計画通り実施した。

② 平成20年度決算報告、並びに監査報告：

報告内容は、以下の各添付総会付議資料名下のURLをクリックしてご覧ください；

- ・ 平成20年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

<http://npo-edojo.org/2008%20income%20and%20expenditure%20account%20statement.pdf>

- ・ 平成20年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

<http://npo-edojo.org/2008%20balance%20sheet.pdf>

- ・ 平成20年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

<http://npo-edojo.org/2008%20list%20of%20assets.pdf>

- ・ 監事監査報告書

<http://npo-edojo.org/2008%20audit%20report.pdf>

・第2号議案：定款の一部改定（組織活性化の課題の一環として）

定款に定められている現行の理事数「10名以上20名以内」を「5名以上15名以内」に改定

・第3号議案：平成21年度事業計画：

- 1) 事業活動方針： 会員総数1000名を突破した昨年の活動の成果と反省を踏まえ、「江戸城」再建の夢実現に向けた中期展望（会員総数を出来る限り早期に3000乃至5000名にする）を視野に、新しいステージに向けて着実な一歩を踏み出す年とする。

2) 事業活動内容：

① 会員総数の拡大と組織の活性化：今後2年間で、会員総数3,000名を目指す

本年度は最低1500名、最高2000名を目指す。そのため、理事、特別委員が昨年以上の目標と意欲を持って会員拡大に努力すると共に、正会員も理事、特別委員と一緒に「会員を増やすことが、江戸城再建への道につながる」との夢を共有する中で、正会員ひとり一人に主体的、積極的な参加を求め、組織を上げて、会員拡大に取り組むこととする。

② 外部団体との連携事業：江戸城発祥の地で、江戸城（別名、千代田城）再建の夢を共有するパートナーとして、千代田区内の諸団体や地域住民との連携を強め、会員拡大を共通の目標として取り組む。

③ 江戸城再建基本構想（「築城プラン」）の推進：江戸城再建の基本構想を、学問的、専門的、

技術的に研究、検討し、懸案の「江戸城再建基本構想（築城プラン）」を今秋にも具体化し、本年度末を目途に对外発表を行う。

- ④広報宣伝・啓蒙事業：情報誌・かわら版の発行（年4回）、ホームページの充実を始め、各種イベントやセミナーを開催するなど、多角的な広報宣伝活動を実施する。
- ⑤江戸城再建の意義研究事業、イベントの開催：年3回のセミナーを開催する。大よその予定は次の通り：第7回「再建木造・大洲城に学ぶ（現地視察の旅）」（7月）、第8回「江戸の食文化」（9月）、第9回「伝統の木材文化と江戸城再建」（11月）。その他、恒例のイベント：江戸城見学お花見会（3月）、太田道灌公追慕の集い（10月）
- ⑥事務局体制の強化：質量共に拡大する会の活動を踏まえ、最優先事項として、次の2点から、事務局体制の基盤強化を進める。1）会員を中心としたボランティアの参加を基本としつつも、主として、財務会計、事務局総務管理などの業務を中心に、一部、有償ボランティアの導入を図る。同時に、IT推進について強力に取り組んでいく。
- ⑦財務基盤の強化（「寄付金キャンペーン」の展開）：様々な分野で事業拡大の必要性が高まる一方、主たる収入源を「年会費」に頼らざるを得ない脆弱な財務基盤を改善する為、今後2年間をかけて、事業構想と資金規模を明らかにした上で、心ある会員、篤志家の皆さまを中心に幅広く寄付金募金のアピールをしていく。

（寄付金の使用用途と申込方法等は、後出「特別アピール」をご覧ください）

・第4号議案：平成21年度収支予算：

予算内容は、以下の総会付議資料名下のURLをクリックしてご覧ください；

- ・平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計収支予算書

<http://npo-edojo.org/2009%20income%20and%20expenditure%20badget.pdf>

<質疑応答>

★ 会場よりの主な質問、意見と理事会から回答された質疑応答の骨子は、以下の通りです。

- （会員Aさん）1）会独自の胸章バッジを作成したらどうか？
我々の仲間意識や運命共同体意識の醸成にもなるし、会のPRにもなる。是非検討してほしい。
- 2）質問だが、NPOは全国に数多あるが、会員1000名以上というのは稀有な存在だ。基礎となる会費納入会員は、登録会員の何パーセントなのか？
- （会員Bさん）3）「江戸城再建」のための署名運動をしたらよいと思うが、如何？
- （会員Cさん）4）私は神奈川県海老名に住んでいるが、東京を離れた各地の会員同士の交流の場があればよいと思っている。ところで、会員拡大を進める為にも、当会会員の「名刺」を、会員各自が自主的に制作してよろしいか、見解を伺いたい？

☆ これに対して、理事会からは、

- （理事会）1）胸章バッジの作成については、検討してはいるが、資金手当や在庫管理などの問題から、具体化には至っていない。ご提案を前向きに受け止め、改めて、検討したい。
- 2）昨年の会費納入率は85%で、一般の事例や他NPO団体と比較しても決して見劣りしない数字と思う。積極的に年会費納入にご協力頂く会員の方々に感謝したい。



- 3) 署名運動の展開については、(会員との幅広いネットワークづくりや事務局体制など) 組織の全体的な体力からみて、残念ながら未だその段階には至っていない。しかしご提案の趣旨には大賛成なので、“その時、至れば”皆さんと一緒に、決然として立ち上がりたい。その時がきたら、皆様、よろしくお願いします。
- 4) 「名刺」については、実現の方向で検討したい。建設的なご提案、有難うございます。

懇親会風景



<特別アピール> 平成21年度第4回通常総会で承認されました

300万円募金キャンペーンの趣旨、目的、ご寄附方法は次のページをご覧ください

「財務基盤強化に向けた募金」にご協力ください

特定非営利活動法人「江戸城再建を目指す会」

1. 趣旨、目的：

- 1) 昨年秋の「会員1000名突破記念集会」を経て、私たちは今後の飛躍に向けて足元を固め直すと共に、様々な分野で新しい事業分野の開拓にチャレンジしなければなりません。
- 2) しかし、大部分の収入源を会員の皆様からの「年会費」によって支えられているのが実情で、現状では、財務基盤の安定化が図られているとは言えず、この資金・財務状況を改善することなしには、飛躍的な前進を期し難いことも、事実であります。
- 3) この為、事業構想と資金規模を明らかにした上で、今後2年間かけて、心ある会員と篤志家の皆様を中心に、幅広く「寄附・協賛金」を賜りたく、「財務基盤強化に向けた募金キャンペーン」を展開させて頂くことにいたしました。

皆さまのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

2. 何の為に（事業構想とテーマ）：

- 事務局体制の強化に向けた基盤整備 100万円
(事務局の仕事を一部専任化、外注化して、体制強化を図る)
- 携帯ウェブ・サイトを利用する会員拡大策の推進 . . . 100万円
(携帯ウェブサイトを中心に、新しい会員拡大プロモーション策を講ずる)
- 会員情報管理と入会、決済を可能にするIT化の推進 . . 100万円
(会員情報管理と、ホームページを活用した新たな会員拡大策を講ずる)

合 計： 300万円

3. ご寄附方法：

- 1) ご寄附金額： 「1口 1000円」で、口数や回数制限はありません。
- 2) ご寄附方法：
最寄りの郵便局経由で、備え付けの「払込取扱票」を使って以下の口座にお振り込み下さい
口座番号： 00120-9-（そのあとは右詰で）578881
- 3) 領収書： ご入金確認後、当会より領収書を発行させていただきます
- 4) ご寄附者の顕彰： ご寄附を賜った方は、当会情報誌「江戸城かわら版」とホームページにお名前を公表させていただきます。（匿名ご希望の方は、その旨をお知らせください。）